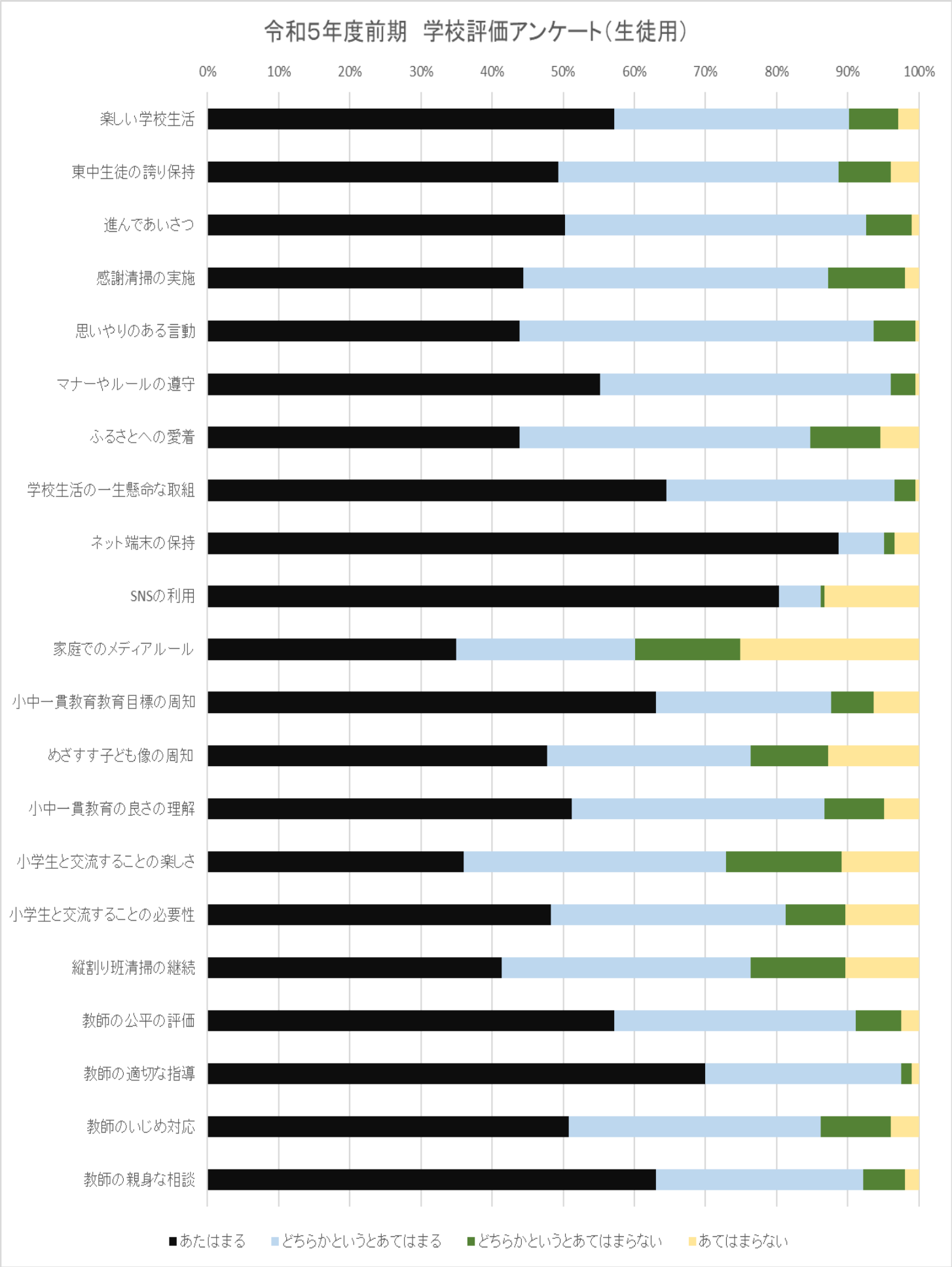
令和５年度前期学校評価　生徒用　集計結果　2023. 7

総回答数　２０３

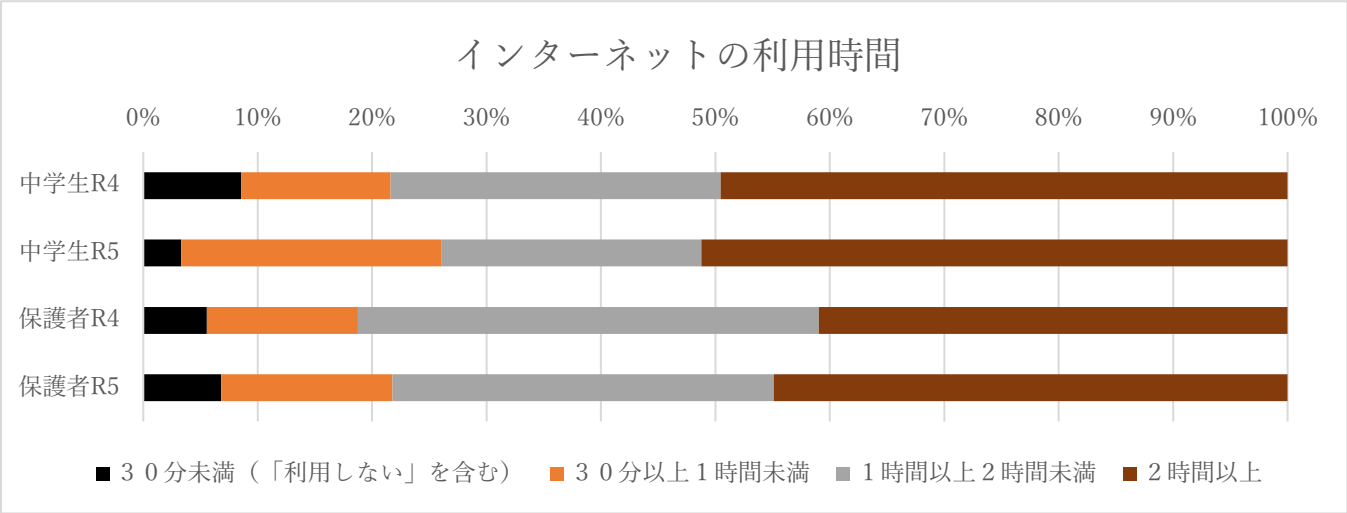


【考察】
〇生徒自身の学校生活に関わることや教職員の指導支援について、どの質問に対しても、全般的に意見が９割程度となっている。（令和４年度後期と同様の傾向）
　特に、教師の適切な指導に関する質問においては、肯定的な意見が約９８％となっており、生徒から非常に高い評価を得ている。また、生徒自身も、学校生活において、行事や委員会などに一生懸命に取り組んでいると回答した生徒が、約９７％となり、生徒の学校生活における前向きな姿勢がうかがわれる。
〇小中一貫教育委おける教育目標の周知については、約８８％の生徒が把握している。昨年度後期の回答が、約８２％であったため、目標の周知が進んでいると考えられる。その背景として、学校教育目標を東小中学校で共有していることや生徒会スローガンが、小中一貫教育の目標を基にして、作られていることが考えられる。
〇小学生との交流に関して、楽しいと感じている生徒は、約７３％の生徒が肯定的にとらえており、昨年度後期の回答（約７４％）とほぼ同様である。今年度は、その理由について、生徒から回答を求めた。
【あてはまる・どちらかといえばあてはまると回答した生徒の理由】
・中学生を見て小学生はどうすればいいか考えて行動するから、自分を見直すことができるから。
・様々な人と交流する事で新たな発見が見つかるから。
・小学生らしい意見が聞けるから。
・自分とは違う考えをしていて、話していて楽しいから。
・好奇心旺盛な彼らを見ていると元気をもらえるから。
・今まで小学生とあまり関わってこなかったから、一緒に話ができて、とても楽しい。
・小学生が中学生の事を慕ってくれると嬉しいし、自分たちも、小学生のために何かしてあげたいと思うから。
・小学生と関わることで、中学生だけで関わる時よりいろんな視点で物事がとらえられるから。
・小学生にいやされるから。
・小学生は、かわいいから。（多数意見）
【どちらかというとあてはまらない・あてはまらないと回答した生徒の理由】
・コミュニケーション能力がないから、知らない人となすこと苦手だから。
・コミュニケーションがうまく取れないから、時々話し合いができなくて、無言になる。
・自分が小学生に対してうまく接するこができているか不安だから。
・まだ言っていい事と言ったらダメなことの区別がついていないのか分からないが言ったらダメな事を平気で言い、注意したら文句を言われ、みんながしているわけではないが交流するたびにストレスが溜まるから交流したくない
・めどくさい
〇今年度の新たな設問として、小学生との交流の必要性について、尋ねたところ、８１％の生徒は、必要であるととらえている。この設問についても、その理由について、回答を求めた。
【あてはまる・どちらかといえばあてはまると回答した生徒の理由】
・中学生になった時に、知っている人が一人でもいると安心できると思うから。
・挨拶を一緒にしたり、一緒に活動したりすると中学生に関心をもってもらえるかもしれない。
・年齢に関係なく、学習できることはいい経験になるから。
・幅広い年齢の人に会うことで、その年齢の人への接し方が分かるから。
・学校全体として、よい雰囲気を作ることができるから。
・中学生は小学生のお手本になる行動をして、小学生は中学生を見習って行動できるとより良い集団になると考えたから。

・中学生は、小学生のいいお手本になろうと思ってルールなどを守るし、小学生は中学生のいいお手本を見てそれをまねしようとなるから。
・仲を深めたり、コミュニケーションをうまくとったりするために必要。
・小学生と交流できるのが小中一貫校の良いところだから。

【どちらかというとあてはまらない・あてはまらないと回答した生徒の理由】
・小中一貫校である良さを生かしたいが、自分は小学生と接することが苦手だから。
・東中学校はあまり東小学校とかかわってなくて関わってなくてもべつに何にもないから。
・いままで、一緒に活動していなくてもできていたから。
・特に意味がない。

【インターネット利用時間】

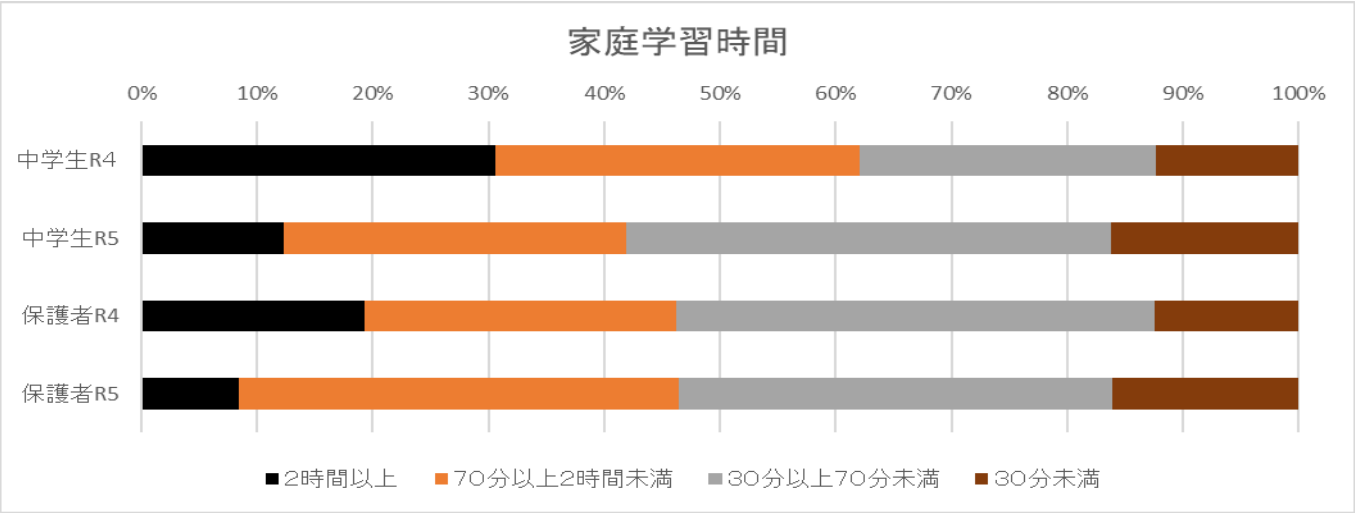


※保護者の項目は、子どものンターネット利用時間を尋ねた結果である。

平日において、２時間以上利用している生徒の場合、勉強時間を確保するためには、睡眠時間が短くなり、睡眠時間を確保するためには、勉強時間が少なくなってしまう。その状況下にある生徒が、５割を超えている状況であり、加えて、令和４年度後期より、その割合は増えている。保護者も、２時間以上子どもがインターネットを利用していると感じている割合が増えており、大きな問題となっている。

さらに、３０分未満の生徒は、さらに減少しており、全体的にインターネットの利用時間が増えていることがうかがわれる。

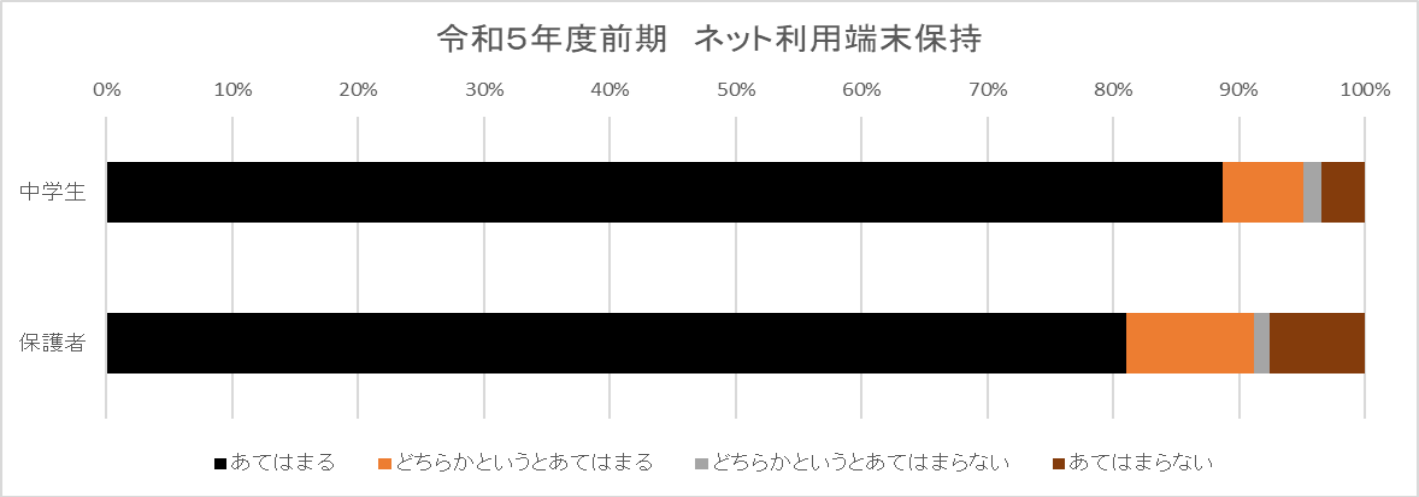
【家庭学習時間】



令和４年度後期に比べると、平日における家庭学習時間が、大きく減少していることがわかる。令和４年度後期は、家庭学習時間が増える傾向にあり、その背景に、９年生の受験による家庭学習時間の増加が要因として考えられる。

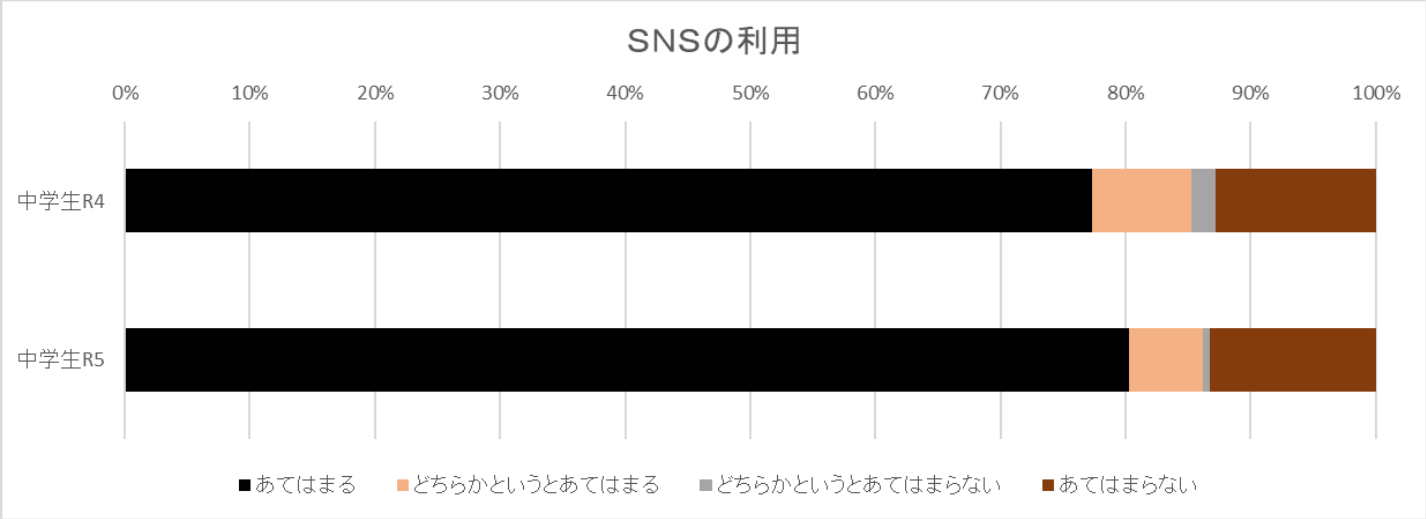
しかしながら、家庭学習時間の減少は、保護者の回答からもうかがわれるため、平素からの家庭学習の積み重ねが大切である。保護者との連携が不可欠である。

【ネット端末の保持率】



令和４年度後期におけるネット利用端末保持率については、約９３％の生徒が、「あてはまる・どちらかというとあてはまる」としたが、今回のアンケートでは、約９５％の生徒が、「あてはまる・どちらかというとあてはまる」と答えており、高止まりの傾向が続いている。保護者についても、同様であるが、ネットにつながる端末をもっていないと回答した生徒と保護者に差異があるため、家庭内のネット利用環境を把握できていない家庭もある。

【SNS の利用】

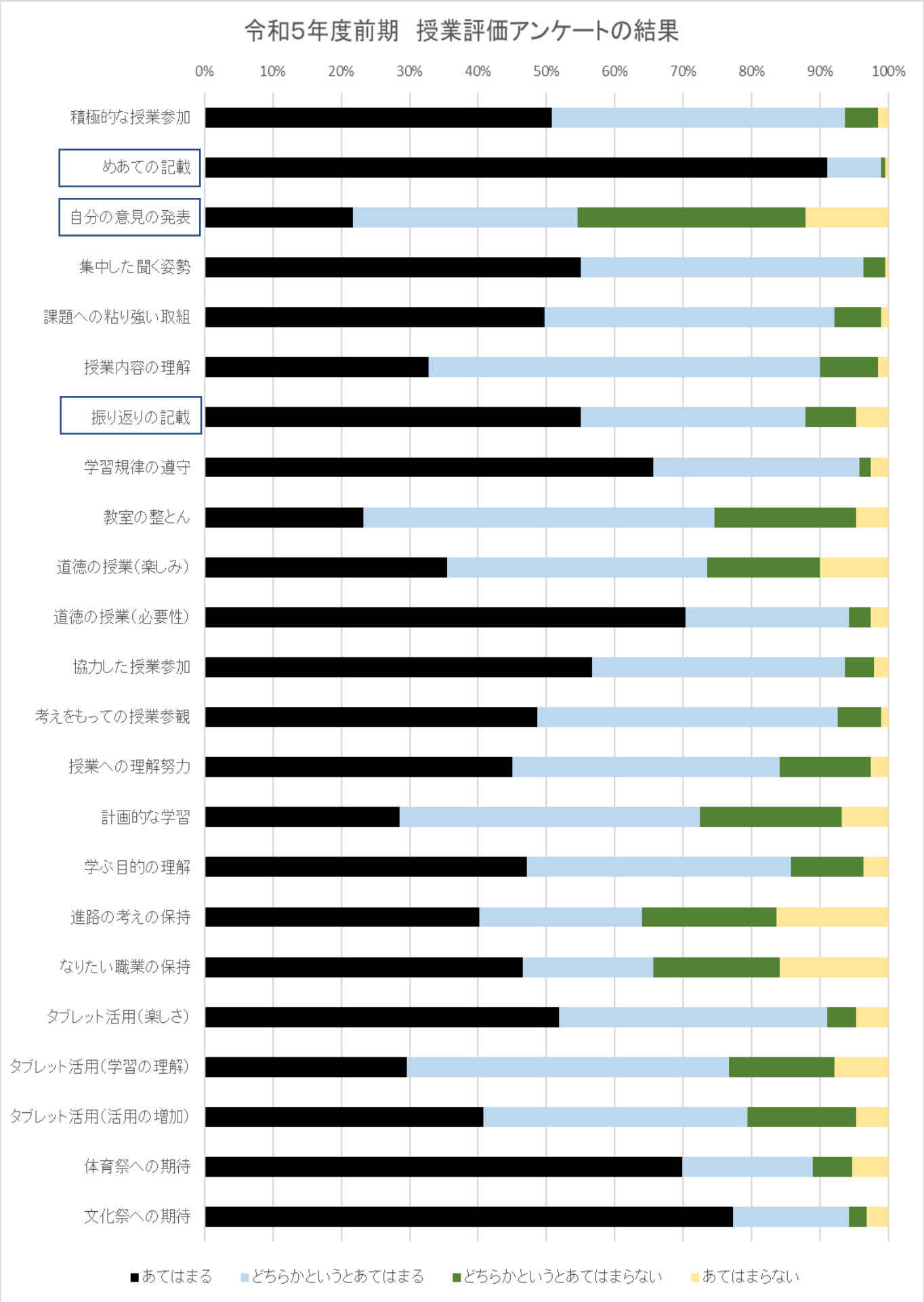


令和４年度後期と比較して、「あてはまる・どちらかというとあてはまる」と答えた生徒の割合は、約８５％であり、大きな違いは見られなかった。しかし、「あてはまる」とした生徒が、令和５年度前期において、約８０％いるため、SNS の利用が、さらに進んでいると思われる。

ただし、「あてはまらない」とした生徒は、約１３％程度いるため、家庭内で SNS の利用を制限していることも考えられる。いずれにしても、SNS の正しい利用について、学校でも継続して指導するが、学校管理外での利用となるため、保護者との協力が不可欠である。

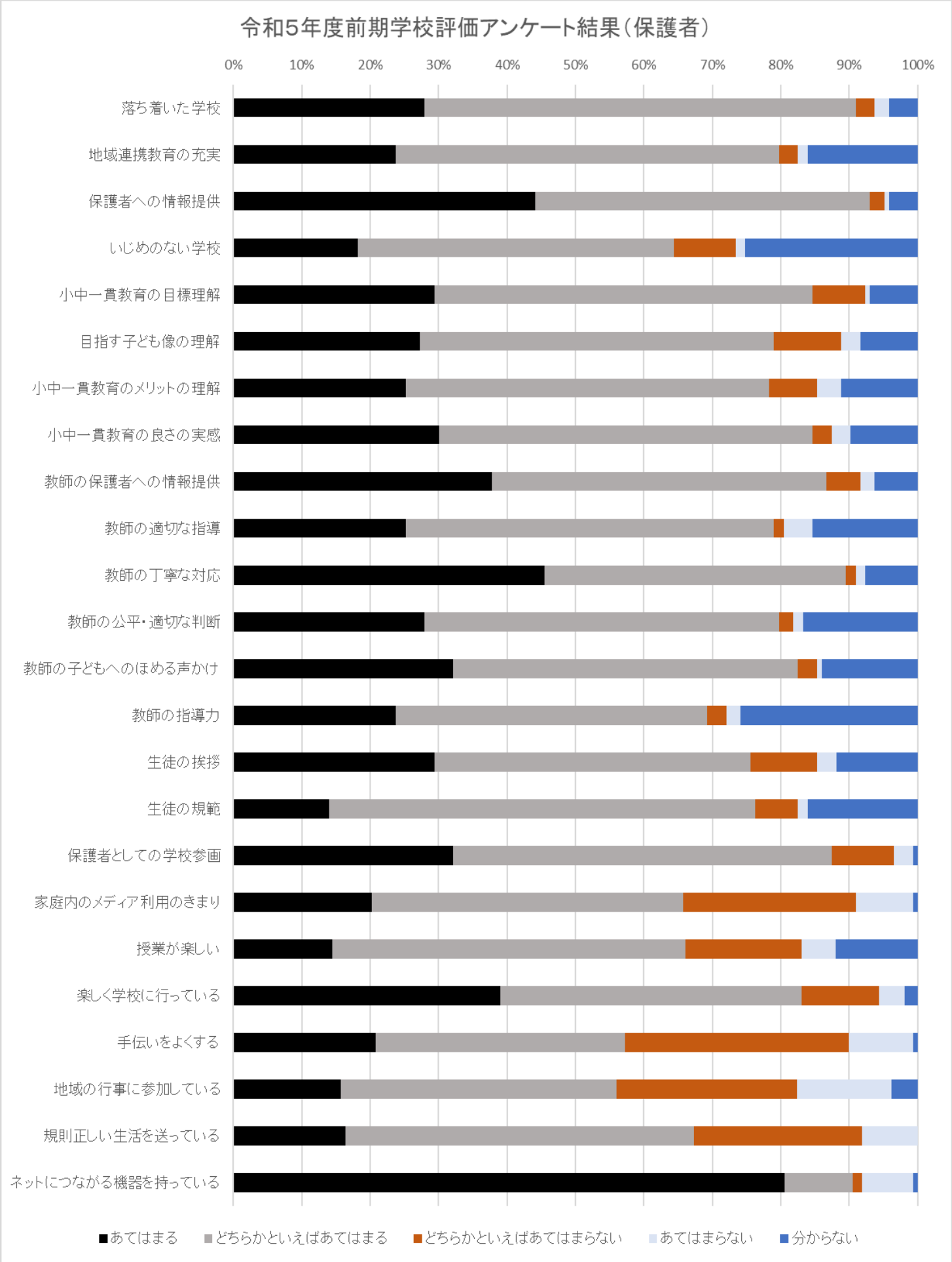
令和５年度前期授業評価　生徒用　集計結果　2023. 7

総回答数　２０３



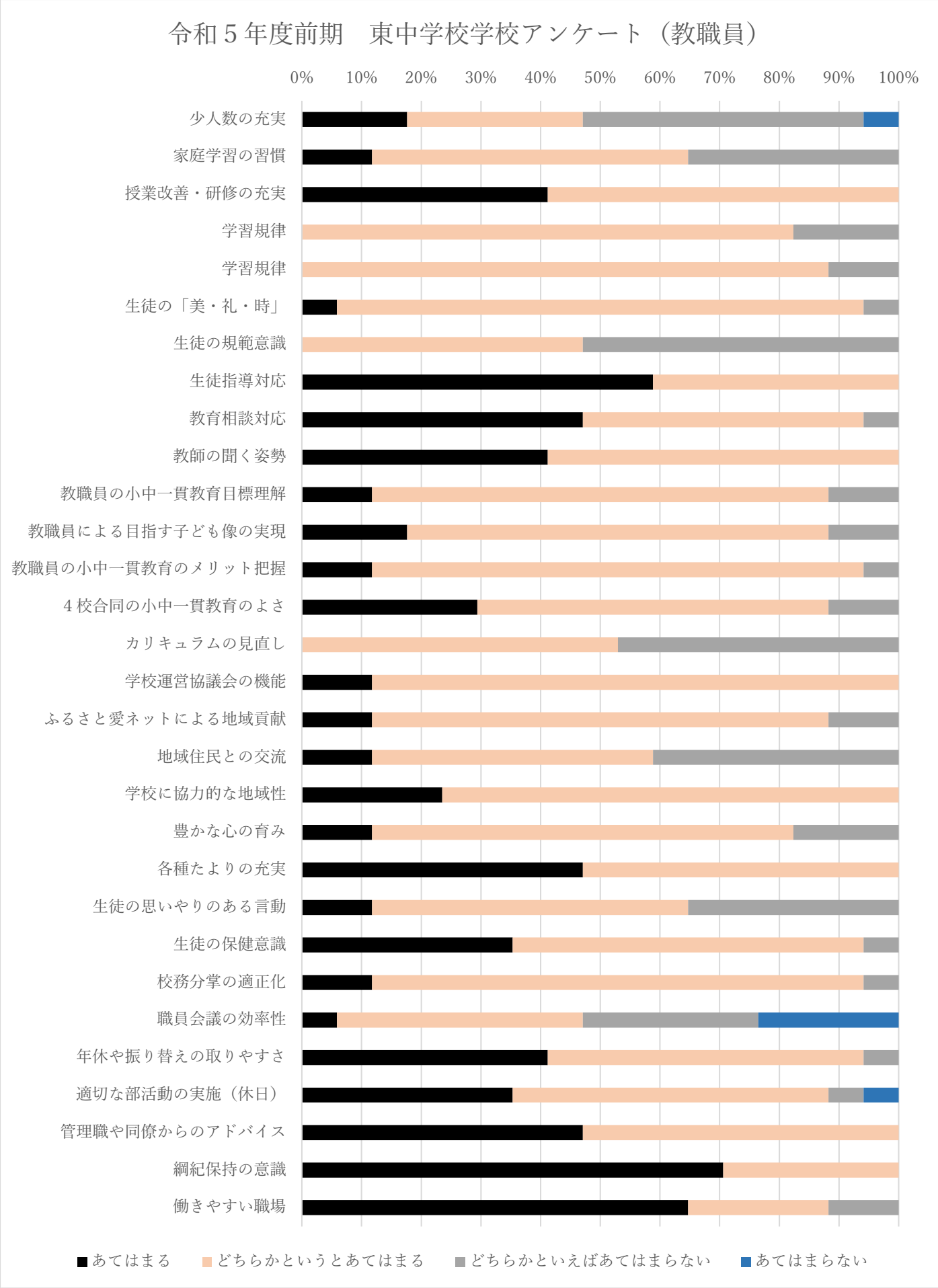
令和５年度前期学校評価　保護者用　集計結果　2023. 7

総回答数　１５９



【考察】
〇昨年度の学校評価アンケートの選択肢に、「わからない」を加えたことにより、不明を加えた肯定的評価は、令和３年度と比較すれば、低下している。しかし、不明を除いた肯定的評価の割合（学校教育関係）は、９割以上が１８項目中１１項目になり、８割以上は１８項目中１７項目となり、多くの保護者が学校教育について、肯定的にとらえている。
〇特に、教師の指導に関する質問項目である「教師の適切な指導」「教師の丁寧な指導」「教師の公平・公正な判断」「子どもへの声かけ」については、全ての項目において、９割を超え、「丁寧な指導」、「公平な判断」「声かけ」に関しては、肯定的な意見が９５％を超えている。
〇学校からの情報提供については、肯定的評価が、９７％となり、昨年度同様に高い傾向にある。自由記述にも、学年便り等により、学校の様子がよくわかるといった意見もあった。さらに、昨年度は、学校ホームページの更新があまりなされていないというお気づきをいただいたが、今年度は担当を中心に、更新を行っており、ホームページに関する保護者からの意見は、今回なかった。
〇令和４年度後期の学校アンケートと比較すると、肯定率が上がった項目は、２４項目中２１項目となった。
〇昨年度の自由記述には、生徒に対する教職員の言葉遣いに関する意見があったが、今年においては、その意見が見られなかった。言葉遣いには、配慮しながらも、生徒による不適切な言動に関しては、毅然とした態度で対応していく。
〇今年度も、依然として、「わからない」と答えた割合は、一定数ある。特に、教師の指導力を尋ねる項目やいじめに関する項目については、２５％程度「わからない」と答えた保護者がいるため、継続した情報の提供が必要となっている。
※特に「いじめ防止対策推進法」に定められているいじめ定義からすると、いじめのない学校というのは、全校において、きわめて少数である。そのため、本校においては、日常的なトラブルとしてのいじめは発生しており、その都度指導を行っている。その状況を踏まえると、設問内容を検討する必要がある。
〇昨年度、前期の学校アンケートには、アリーナにおける熱中症対策の必要性に関する意見が、複数あった。今年度は、アリーナの熱中症対策については、意見はなかったが、アリーナでの体育祭や部活動における対策は、引き続き行ていきたい。（教育委員会へのアリーナ冷房設置への依頼の継続）
〇保護者の自由記述の中に、SNS の扱いについて、心配する意見があった。これまでも、学級で、学年で、全校で、学年通信で、学校便りで、学園だよりで、何度も何度も SNS の正しい利用についての注意喚起を行ってきた。今後も、学校としては、スマホ安全教室の開催や弁護士の講話を行っていく。しかしながら、家庭内のことであり、家庭での管理が第一義である。一人一人の保護者が、責任をもって、子どもの SNS やネットの利用について、注意と指導を行っていくことが不可欠である。ネットの利用は、生徒一人一人が正しく使わなければ、取り返しのつかない「いじめや犯罪」に巻き込まれるという危機感をもってもらいたい。
※今年度、夏休みに市教委主催の「いじめ問題子どもサミット」が実施され、市内全中学校から代表生徒が集まり、いじめ問題について、協議を行う。協議する内容は、SNS の扱い方であり、全国同様、市内中学校でも、SNS によるトラブルが発生していることがその背景にある。サミットの結果を学校便りや学園だよりで広く周知するとともに、学校・保護者・地域が一体となった取り組みにつなげたい。
〇自由記述の中で、最も多くの意見は、「特にありません」であった。「特にありません」のとらえ方は、現状への満足であったり、学校への関心のなさであったり、様々な保護者の思いがあること

が予想される。育友会や学校運営協議会棟と連携しながら、学校への関心が高まるような、情報の発信が必要である。
〇保護者の自由記述の中には、教職員の指導に感謝の言葉が多数あり、感謝しつつも、教師の働き方について心配する意見もあった。持続可能な東中学校教育を展開するためにも、保護者の理解を得ながら、業務や行事の見直しを進めていかなければならない。

令和５年度前期学校評価　教職員用　集計結果　2023. 7

総回答数　１７